1回版 1回の 1回版 1em 1e				1	8月13日 更新		トフーズ株	八云仁	
対域の表情の報告を利用のように対していまった。	<u> </u>	項目		備考					
	供	1.国産	○ 6月の全国豚と畜頭数は、1,193千頭と前年を下回った。(前年比89.9%)。	国内生産量	の推移 (千頭:%) 農水省出荷	5予測 ((千頭:%)	
日本			地域別と畜頭数(数値は前年同月比);北海道90.4%、東北87.0%、関東87.8%、北陸甲信越85.0%、東海90.9%、近畿93.8%、中四国92.0%、九州・沖縄93.2%		国内と畜頭数	FF /-	出荷子	5測	
###			○ 7月の全国と畜頭数は、1.310千頭(速報値7月31日まで集計、前年比105.0%)と前年を上回る見込みとなった。	暦年		暦年		前年比	
○ 関係生産性化子製造物が含物に関から、19月11年17日に入る。19月12年17日に対した。19月12日に対している。19月11日に対している。19月12日にいる。19月12日にいる。19月12日にいる。19月12日にはる。19月12日にいる。19月12日にいる。19月12日にいる。19月12日にいる。19月12日にいる。19月12日にい				DO左	 	DC# OF			
2. 名次					 	7 H		100	
2章人 2月の水の海南は北江、東海会から317年、(南海は1008)、南日北京の総の、南日北京の総の 2月の102 (8、南京の)となった。 2月の102 (8、西京の)となった。 2月の102 (8、西京の)となった。 2月の102 (8、西京の)となった。 2月の) 2月				 	 	7 H		102	
内容は、カルドの加工手、(前で用収別、前月地川の、アルーズンはおしず、(同1028)、同路(日)とかった。				R4年	16,577 98.	R6年 10月	1,432	100	
日本学の2か、中心では20 ダ、24かに後期の、東口18 2年、(日本の20 大学シーケが機能し、次ペイン、女学のの機能し、次ペイン、女学のの機能した。 (本分が影響性を関係の発音を受けられて、日本の20 大学の18 2年 1 1.00 1 0.00		2.輸入	○ 6月の輸入通関実績は、豚肉全体で81.7千 ^ト 。(前年比100.3%、前月比86.8%)と前年並みとなった。	R5年	16,407 99.	R6年 11月	1,468	99	
### (内訳は、チルドが30.2千ド、(前年比97.5%、前月比90.1%)、フローズンは51.5千ド。(同102.1%、同85.0%)となった。	R6年 3月	1,371 93.	R6年 12月	1,485	102	
## 1 1.90 (場下力) 総分別を利用手型側向入者量			国別でみると、チルドではカナダ、メキシコが増加し、米国が減少した。フローズンでは米国、カナダ、デンマークが増加し、スペイン、メキシコが減少した。	R6年 4月	1.409 106.	2			
### タルン (スペントは71-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-1-			(参考)形態別相手国別輸入数量		1	7			
□ (19.20年) (中華に対す。「前年に対す。「前年に対す。「前年に対し、大学とのよう。「大学とのよう。「「前している」、「「前している」」「「前している」」」「「前している」」「「前している」」「「前している」」「「前している」」「「前している」」「「前している」」「「「神している」」「「「いる」」」「「「いる」」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「「いる」」「いる」					1 1	7			
○ (金)漁畜産業権制制権のよれて利用する日と大力によると、1946権人権、2021年、(前年は10.8%)、8月の権人権、81.5年、(前日10.3%)と7月、8月とれに上回ると見込まれる。				10年 0月	1,195	2			
野年 一般入散日 一方小尺は、実態機成の移動に立き出たると等から、7月、8月上に命作両月を下回ると見込まれる。				[A - F 17]	(1 0/)				
カー・スノは、実用者の内部が引込たれること等か。7月、まけとは「即中国月を上回る上京込んでいる。					T T	T	夏 実績		
2月 中の			チルドは、現地相場高の影響により米国産の減少が見込まれること等から、7月、8月ともに前年同月を下回ると見込まれる。	暦年	輸入数量	チルド数量			
会称6年7月:合計62.9千9(前年比10.8%)、チルド30.1千9(同99.4%)、フローズン52.8千9(同118.5%) 会称6年8月:合計61.5千7(前年比10.3%)、チルド30.1千9(同99.4%)、フローズン52.8千9(同118.5%) 国近337月(6月 -8月) 平均、分別を20千5(前年比10.3%)、チルド30.1千9(同99.4%)、フローズン52.8千9(同118.5%) 1.家計			フローズンは、米国産の増加が見込まれること等から、7月、8月ともに前年同月を上回ると見込んでいる。		トン 前年比	トン	前年比		
日本の			3か月平均では、チルドは下回り、フローズンは上回ると見込んでいる。	R2年	891,807 93.	416,334	102.2		
日本学 日本の日、全計和におす。(前年比10.3%)、サルド31、千字。(同78.7%)、フレーズン61.4千~(同131.2%) 1.京計 海球 1.京計 (前年比10.7%)、サルド30.6千~(同4.9%)、フレーズン61.4千~(同151.8%) 1.京計 海球 2.小京湖南 2.小京湖南 2.小京湖南 2.小京湖南 2.小京湖南 2.小京湖南 2.小京湖南 6.月報代 2.日本学・インタル 4.年後の6月の東記報音楽によると、音楽部門の党上高は1,136.2億円備半比10.2%、既存度ペース10.1%)と前年を上回った。 6.月15年半月 9.54.22 9.0.1 33.719 10.1.			令和6年 7月:合計82.9千½(前年比110.8%)、チルド30.1千½(同99.4%)、フローズン52.8千½(同118.5%)	R3年	903,455 101.	3 420,361	101.0		
直接3か月(6月~8月)平均:合計約2.0千)、(前年比107.0%)、チルド30.6千)、(同94.9%)、フローズン51.4千)、(同115.8%) 85年 919.713 94.2 393.416 99.1 99.1 87.3 17.6 34.018 99.1 18.3 18.3 19.5 18.3 19.5 18.3 19.5 18.3 19.5 18.3 19.5 18.4 19.5 18.3 19.5 18.4 19.5 18.4 19.5 18.5 19.5 18.5 19.			令和6年8月:合計81.5千½(前年比110.3%)、チルド31.1千½(同87.8%)、フローズン50.4千½(同131.2%)						
1.家計 消費									
端八量、金額ともに前年を上回った。 日本スーパーマーケット協会など食品関連メーバー3団体の6月の販売説料連報によると、畜産部門の売上高は1,136.2億円(前年比102.9%、販存店ペース101.8%)と前年を上回った。	<u> </u>	- 							
2.小売動向 6月 概況 6月 権況 6月 権限 6月 の販売能計連報によると、畜産部門の売上高は1,136.2億円(前年比102.98、長存店ペース101.88)と前年を上回った。 6月 情味上り上すが日子っ多 (販売は回位にが、金銭の次用金額の乗車機)でありまたが 4世 がしたが、他力の動きは良かったものの、中間のかまでは、 4世 は、 20 日本ウェーンストア協会が必要した。 104.0 33.5.59 95.5 6月は前生かと上が1日すっ多 (販売は回位にが、金銭の次用金額の乗車機)でありまた。 104.0 33.5.59 95.5 6月は前生が上すが1日すっ多 (販売は回位にが、金銭の次用金額の乗車機)でありまた。 4世 は、 20 日本ウェーンストア協会が公表した 6月 販売 6月 19.1.70 10.3 30.230 97.5 後点用金 20 日本ウェーンストア協会が公表した 6月 販売 6月 19.1.70 10.3 30.230 97.5 後点用金 20 日本ウェーンストア協会が公表した 6月 販売 6月 19.1.70 10.3 30.230 97.5 後点用金 20 日本ウェーンストア協会が公表した 6月 販売 6月 19.1.70 10.3 30.230 97.5 後点用金 20 日本ウェーンストア協会が公表した 6月 販売 6月 19.1.70 10.3 30.230 97.5 後点用金 20 日本ウェーンストア協会が公表した 6月 販売 6月 19.1.70 10.3 30.230 97.5 後点 10.3 30.230 97.5 後年 6月 10.5 30.230 97.5 後点 10.3 30.230 97.5 後年 6月 10.5 30.230 97.5 後記 10.3 30.230 97.5 後点 10.3 30.230 97.5 後点 10.3 30.230 97.5 を計画を上している。 20.3 30.230 97.5 後年 6月 10.5 30.230 97.5 後点 10.3 30.230 97.5 を計画を上している。 20.3 30.2 30 97.5 後年 6月 10.5 30.230 97.5 後年 51 4年 5				I					
6月紙院 6月紙院 6月紙院 6月に前年均上1が11ずつ多く販売に回復したが、全般的な報場高側向が雑き販促しづらい状況が続いている。性ご必のから場向、需要シアが強まっている。生肉は、欠の日用のステーキ、気間上昇により歳利用に一部で需要が何収したが、向本など言葉傾面にあせったご意味している。限別は、小面切よやひき肉など底ごから海は「需要シの収食値、海内は販売が伸及しているが、加工向内は水平側の判断がわかれる。 日本チェーンストア協会が公表した6月販子機院によると、音楽品の売上は823.5円(店舗開産後後で前年比103.4%)となり、前年を上回った。 87 7月紙院 2 2 2 2 2 2 2 2 2		-	AFT ENCOTON ELLI STO		†				
 無規用は一部で需要が回復したが、和中など高単価商品を中心に苦褻している。終肉は、小面切れやひき肉など値ごろな高材に需要が回復傾向。無肉は販売が申長しているが、加工肉は好不獨の判断がわかれる。		2.小売動向	○ 日本スーパーマーケット協会など食品関連スーパー3団体の6月の販売統計速報によると、畜産部門の売上高は1,136.2億円(前年比102.9%、既存店ベース101.8%)と前年を上回った。	R6年 5月	94,126 104.	33,549	95.6		
田本チェーンストア協会が公表した6月販売機況によると、畜産品の売上は823.5円(店舗調整後で前年比103.4%)となり、前年を上回った。 解角、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉の動きは魅かった。 鶏卵、ハム・ソーセージの動きは触かった。 学校給食の終了により一時的に需給が緩和したが、全国的な器品により肉豚の成育に影響が出たことで国内出荷頭数が伸び悩み需給がしつ迫した。 学校給食の終了により一時的に需給が緩和したが、全国的な緩和に至らず需給は引き締まったまま推移した。 日本ハム・ソーセージ工業協同組合発表の6月の豚肉加工品仕向量は30.1千′。(前年比102.9%)と、加工品の値上げによる販売不振は続くが、前年を上回った。 内沢は、国産原料6.0千°。(前年比4.9%)・輸入原料24.1千′。(同102.4%)となった。 内沢は、国産原料6.0千°。(前年比86.7%)と、前年を下回った。 内沢は、国産原料6.0千°。(前年比86.7%)と、前年を下回った。 内沢は、国産原料6.0千°。(前年比86.7%)と、前年を下回った。 内沢は、韓人高:193.2 千°。(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回った。 内沢は、輸入高:193.2 千°。(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回った。 大き、人後の朝来在庫は、7月は219.2 千°。(同104.0%)と前年を下回って推移するものと見られる。 日、1.86年7月 連帯値 「利用31日時点)は、831円/㎏(前年比122.4%)と前年を上回った。 1.86年7月 連帯値 「利用31日時点)は、831円/㎏(前年比122.4%)と前年を上回った。 1.86年7月 連帯値 「利用31日時点)は、831円/㎏(前年比122.4%)と前年を上回った。 日、1.80年1 日、1	1	6月概況	6月は前年より土日が1日ずつ多く販売は回復したが、全般的な相場高傾向が続き販促しづらい状況が続いている。値ごろ感のある鶏肉へ需要シフトが強まっている。牛肉は、父の日用のステーキ、気温上昇により	R6年 6月	81,705 100.	30,230	97.5		
勝肉、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。 7月機況 ○ 全国的が驚暑により肉豚の成育に影響が出たことで国内出荷頭数が伸び悩み需給がひっ迫した。 字校給食の終了により一時的に需給が緩和したが、全国的な緩和に至らず需給は引き締まったまま推移した。 3.加工肉			焼肉用は一部で需要が回復したが、和牛など高単価商品を中心に苦戦している。豚肉は、小間切れやひき肉など値ごろな商材に需要が回復傾向。鶏肉は販売が伸長しているが、加工肉は好不調の判断がわかれる。						
勝肉、鶏肉の動きは良かったものの、牛肉の動きは鈍かった。鶏卵、ハム・ソーセージの動きは鈍かった。						家計消費量 (グラ. 円. %)			
→ で で で で で で で で で で で で で で で で で で で	要								
学校給食の終了により一時的に需給が緩和したが、全国的な緩和に至らず需給は引き締まったまま推移した。 R2年 22,973 108.5 32,861 110.5 110.5 110.5 12,2559 98.2 31,892 97.1 108.5 32,861 110.5 110.5 110.5 12,2559 98.2 31,892 97.1 108.5 32,861 110.5 110		7日輝沪				1			
3.加工内 仕向量		7月19年7月		Do/T					
3.加工肉 ○ 日本ハ小・セージ工業協同組合発表の6月の豚肉加工品仕向量は30.1千°、(前年比102.9%)と、加工品の値上げによる販売不振は続くが、前年を上回った。			子仪和良の於丁により一時的に而和が被仰したが、王国的な被仰に王りり而和は力さ神まりたまま推移した。		 				
仕向量 内訳は、国産原料6.0千°、(前年比104.9%)・輸入原料24.1千°、(同102.4%)となった。なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは8.5千°、(前年比86.7%)と、前年を下回った。					 				
なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは8.5千°、(前年比86.7%)と、前年を下回った。 1.在庫 (3.4)農畜産業振興機構の需給予測(7月29日公表)によると、6月末の推定期末在庫量は217.9千°、(前年比89.0%、前月比101.7%)となり、前年を下回った。 内訳は、輸入品;193.2千°、(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回り、国産品;24.8千°、(同126.4%、同102.5%)と前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、7月は219.2千°、(同91.0%)、8月は224.5千°、(同94.0%)と前年を下回って推移するものと見られる。 1.R6年7月 (7月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;7月31日時点)は、831円/kg (前年比122.4%)と前年を上回った。		3.加工肉		R4年	22,297 98.	32,487	101.9		
1.在庫 ○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(7月29日公表)によると、6月末の推定期末在庫量は217.9千。(前年比89.0%、前月比101.7%)となり、前年を下回った。 内訳は、輸入品;193.2千。(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回り、国産品;24.8千。(同126.4%、同102.5%)と前年を上回った。 中部		仕向量	内訳は、国産原料6.0千½(前年比104.9%)・輸入原料24.1千½(同102.4%)となった。	R5年	22,031 98.	33,553	103.4		
在 内訳は、輸入品;193.2千°、(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回り、国産品;24.8千°、(同126.4%、同102.5%)と前年を上回った。 また、今後の期末在庫は、7月は219.2千°、(同91.0%)、8月は224.5千°、(同94.0%)と前年を下回って推移するものと見られる。 1.R6年7月 ○ 7月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;7月31日時点)は、831円/kg(前年比122.4%)と前年を上回った。			なお、上記仕向量とは別枠のシーズンドポークは8.5千½(前年比86.7%)と、前年を下回った。	R6年 3月	1,921 103.	2,893	104.7		
在	在	1.在庫	○ (独)農畜産業振興機構の需給予測(7月29日公表)によると、6月末の推定期末在庫量は217.9千、(前年比89.0%、前月比101.7%)となり、前年を下回った。	R6年 4月	1,791 95.	3 2,695	95.7		
車 また、今後の期末在庫は、7月は219.2千% (同91.0%)、8月は224.5千% (同94.0%)と前年を下回って推移するものと見られる。 R6年 6月 1,804 101.7 2,727 101.7 加工品仕向量 (千**・**) 市況の推移(東京市場を)は、831円/kg (前年比122.4%)と前年を上回った。			内訳は、輸入品;193.2千~(前年比85.8%、前月比101.7%)と前年を下回り、国産品;24.8千~(同126.4%、同102.5%)と前年を上回った。	R6年 5月	1	2.742	100.1		
1.R6年7月			また、今後の期末在庫は、7月は219.2千~(同91.0%)、8月は224.5千~(同94.0%)と前年を下回って推移するものと見られる。		 				
1.R6年7月 〇 7月の東京市場枝肉卸売価格(速報値;7月31日時点)は、831円/kg(前年比122.4%)と前年を上回った。 暦年 加工品仕向量 暦年 加工品仕向量 円/kg 2.予測 ○ 8月は、7月に続き暑い日が続くと見込まれるものの、肉豚の成育遅れによる出荷頭数減は徐々に回復してくることが想定されることや、 82年 379.4 100.6 R3年 379.4 100.6 R3年 368.5 97.4 R4年 368.5 97.4 R4年 582			STOCK TO STORE TO THE TOTAL OF THE PROPERTY OF					(III /1 0/)	
速報値 7月は、全国的な酷暑により肉豚の成育に影響がでたことで、需給がひっ迫し、高値で推移した。中旬には学校給食の終了により一時的に需給が緩和し値下がりしたものの、 全国的な需給緩和には至らず再び高値で推移したため、前年・前月ともに大きく上回った。	\vdash	4 Da ===	↑ 7日の東京古根は内知志無枚 (連起値・7日21日時点) は、921円 /L- (並矢比199 4W) b並矢さ L回 - を	1	1	7			
全国的な需給緩和には至らず再び高値で推移したため、前年・前月ともに大きく上回った。 R2年 376.7 101.5 R2年 561 枝肉 2.予測 ○8月は、7月に続き暑い日が続くと見込まれるものの、肉豚の成育遅れによる出荷頭数減は徐々に回復してくることが想定されることや、 R4年 368.5 97.4 R4年 582		•		一一一一一一一一	<u> </u>	暦年	=======================================		
技 R3年 379.4 100.6 R3年 379.4 100.6 R3年 546 R4年 368.5 97.4 R4年 582 R4年 582 R4年 582 R4年 700.6 R40.6 R40		速報値		l		-		前年比	
図 2.予測 ○ 8月は、7月に続き暑い日が続くと見込まれるものの、肉豚の成育遅れによる出荷頭数減は徐々に回復してくることが想定されることや、 R4年 368.5 97.4 R4年 582			全国的な需給緩和には至らず再び高値で推移したため、前年・前月ともに大きく上回った。		+	 	561	106.9	
	枝			R3年	379.4 100.	R3年	546	97.3	
相 取を10月 乗車五づけ地士での周少乗車に期待成けなるとのの、除身し仕び防衛舎強力と応力が進力されてたが、月辺やづけ配合するの状故が担立されて	肉相場	2.予測	○8月は、7月に続き暑い日が続くと見込まれるものの、肉豚の成育遅れによる出荷頭数減は徐々に回復してくることが想定されることや、	R4年	368.5	1 R4年	582	107.0	
		R6年8月	需要面では地方での帰省需要に期待感はあるものの、残暑と生活防衛意識から豚肉消費の減退が見込まれるため、月平均では弱含みでの推移が想定される。	R5年	336.4 91.	R5年	609	104.9	
		, -/ •		l 	1	⊣	613	109.1	
					 		714	111.0	
			│		+	7	754		
						1		108.0	
【上物】(前年比) 754円/kg(108.2%) 831円/kg(122.4%) 780円/kg(109.9%) 700円/kg(100.7%) R6年 5月 30.1 102.9 R6年7月速報値 831	<u> </u>		[工物](刑于尼) (34円/Kg(100.270) 631円/Kg(122.470) (80円/Kg(109.9%) (00円/Kg(100.1%)	K6年 5月	30.1 102.	R6年7月速報値	831	122.4	